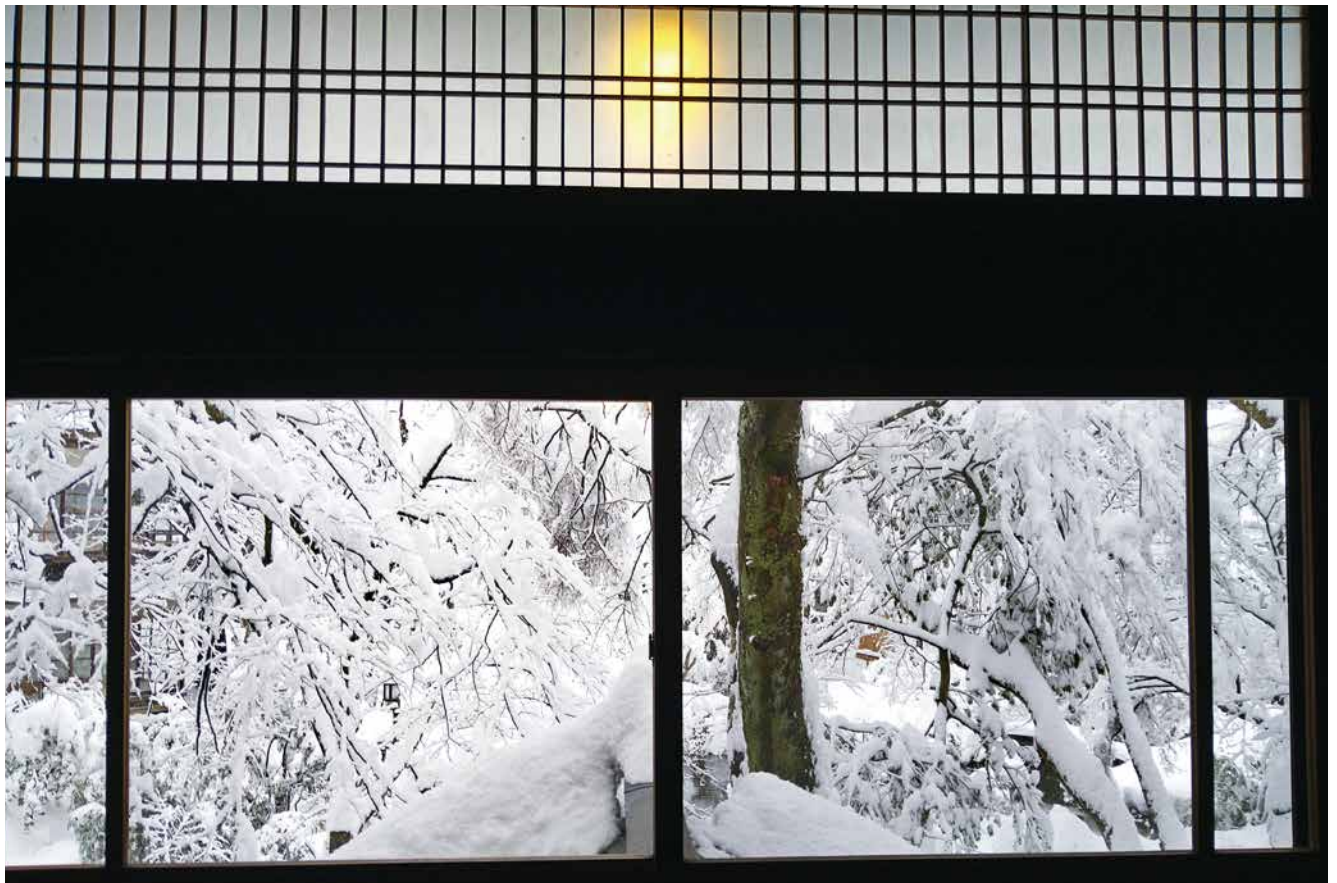


雪の音で

Vol. 147

令和5年2月15日発行



巻頭言	発進する好循環な北陸圏の形成 —北陸圏の自立と広域連携—	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部長 寺本邦一	1
特集	自然災害の学び舎「地すべり資料館」30周年を迎えて	新潟県上越地域振興局 妙高砂防事務所	2
寄稿文	越後平野に伝わる大蛇伝説と河川 ～滝谷川・能代川から信濃川、太田川へ～	株式会社クリエイトセンター 田邊敏夫	6
ちょっと気になる コーナー	久しぶりの添乗業務と白根大風合戦	中越交通株式会社 常務取締役 山崎康裕	10
お知らせ	2022年度 建設コンサルタンツ協会 北陸支部 業務・研究発表会	技術部会 統括技術委員会	12
お知らせ	【開催報告】皆でフックアップ！ 北陸建コン若手エンジニア 2022	技術部会 若手技術者ワーキンググループ	16
お知らせ	令和4年度 道路・トンネル研修会	技術部会 道路委員会、トンネル委員会	18
	会員名簿 役員・委員会名簿	事務局	20
	編集後記	長田宏之	

[題字]

元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

[表紙・裏表紙写真]

タイトル 冬将軍
撮影地 新潟県阿賀野市村杉地内
撮影者 猪俣孝之

巻 頭 言

発進する好循環な北陸圏の形成 —北陸圏の自立と広域連携—

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部長

寺 本 邦 一



1.はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大やロシアのウクライナ侵攻など不確実な状況が続いています。そして、人口減少・少子、潜在成長率の停滞、災害の頻発化・激甚化など内外の情勢が激変しています。

今後、落ち込んだ地方経済の回復に向けて経済の成長力の底上げと好循環の実現を図り、持続的な成長戦略が求められています。そのためには、地域間競争に打ち勝つ競争力の強化を図る「安全・安心な地域づくりの基盤整備」と「成長のための基盤整備」が欠かせません。

政府は、経済社会の構造変化に対してより強靱で持続可能なものにする「新しい資本主義」を起動することにしました。

そして、一極集中から多極化した社会をつくる地域を活性化する改革の方向性を示したところです。

また、社会経済的な課題への対応として「強靱化の確保」「持続可能性の確保」「経済成長の実現」が3本柱になります。

2.安全・安心な暮らしの確保

安全な地域創成に対し、気候変動により毎年のように各地で自然災害が発生しています。そして同じ場所に激しい雨が降る「線状降水帯」などによりもたらされる「集中豪雨」がこの45年間で2倍に増え甚大な災害となっています。特に梅雨に当たる6月から7月では4倍に迫っているところです。

国土強靱化基本法は、今年12月に制定から10年の節目を迎え見直しに向けて動きだしています。

また、豪雪地帯である北陸は、昭和38年1月から2月にかけて日本海を中心に都市部でも2mを超える積雪となった未曾有の「三八豪雪」から今年で60年が経過します。

昭和38年に続き昭和56、平成18、令和3豪雪へと展開してきました。

今冬は、ラニーニャ現象の影響で低温・多雪と予測がされています。

雨・雪等の自然災害に強く安心して暮らし続ける北陸の地域づくりを目指すことになります。

3.多様化に向けた地域活性化の推進

東京一極集中の是正、多極集中、社会機能を補完・分散する国土構造の実現に向け、個性を活かした風通しのよい新たな地方の活性化を強力に進めることです。また、地方発のボトムアップ型の経済成長を通じ、持続可能な経済社会の実現や個人と社会のWell-beingの向上、地方でも利便性が高く安心して暮らし続ける地域づくりを目指すことになります。

そして、競争力のある経済社会の構築が急がれます。成長のための基盤整備は、交流・物流ネットワーク等のインフラ整備のほか、地域の活力を発揮させるためのまちづくりを推進することです。

そのため、我が国の成長を支えるサプライチェーンの強化や地域活性化に向けた環境整備のため、高規格道路、整備新幹線、港湾等の物流・人流ネットワークの早期整備・活用、航空ネットワークの維持・活性化、港湾の24時間化も念頭においたAIターミナルの実現、海運業等の競争力強化等に取り組むことになります。

生産性向上や地域の活性化につながるインフラ分野のDX、防災情報の発信など住民の安全・安心に繋がる流域治水DX、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化などまちづくりDXなどが推進されます。

建設コンサルタントは、競争力を強化する新たな北陸圏の発展に向けた社会基盤づくりの使命を積極的に果たしてまいります。

自然災害の学び舎「地すべり資料館」30周年を迎えて

(上越市板倉区猿供養寺)

新潟県上越地域振興局 妙高砂防事務所

1.はじめに

当地すべり資料館は、平成4年10月に猿供養寺地すべりの観測・各種地すべりに関する資料の保管展示及び地すべり災害の啓発などを目的に全国初の本格的な地すべり資料館として開館し、昨年で30年の節目を迎えました。

開館後、地すべり現象が落ち着いてきたため施設の目的の一つである地すべり観測を終了し、さらに施設の老朽化や専門性が高く地域性が乏しいなどの理由から次第に入館者数も減少し、財政的な制約もあり施設の存続が危ぶまれました。

これを契機に、所管する妙高砂防事務所の職員や地元住民を中心に改めてワーキンググループで企画・展示方法などの検討を重ねた結果、職員や住民による「手作り」を基本とする防災学習の拠点や地域に密着した施設づくりなどを新たなコンセプトとして平成23年11月にリニューアルオープンしました。



地すべり資料館の全景(右奥は「人柱供養堂」)

2.リニューアルオープンの概要

リニューアルオープンにあたり、まず力を入れたのが「防災学習の拠点」づくりです。防災学習では、小学生から一般まで広く対象としており、特に小学生に対しては、学校で学んでいる社会や理科の内容を多く取り入れる工夫をし、分かり易い説明を心がけています。また受講生に対しては、自ら自然災害から命を守るにはどうすべきかを考えてもらうよう努めております。

R4年度の防災学習は1月末時点で16回実施しています。
(小学校5回、中学校1回、高校3回、一般7回)

入館者数は、防災学習やリニューアルにより、前年度と比べ約4割増となり、コロナ禍前までは概ね維持してきました。しかしながら、コロナ禍後は企画イベントの中止などの理由から逆に4割減となっており、入館者数の回復が大きな課題となっております。

リニューアルで工夫した内容を紹介します。

(1) 展示パネル

当資料館がある上越市板倉区周辺は日本有数の地すべり地帯です。特に小学生に対してはまず身近な災害である地すべりに関して知ってもらうため、地すべりの要因でもある大地の成り立ちから自然災害への備え(ハザードマップ)まで下記の7つのコーナーに分けてパネルを展示しています。

- ①大地はどうやってできたか
- ②自然の猛威
- ③自然災害の特徴
- ④新潟県内の地すべり
- ⑤地すべりを止めるには
- ⑥自然災害に備える
- ⑦ハザードマップ

パネルは、小学生でも理解できるように写真・イラストを多用し、大切なメッセージはキャラクター(地すべりくん等)が伝えるなど工夫して作成しています。

また白衣を着て「地すべり博士」に扮した当所の職員が、先輩博士からノウハウを引き継ぎ、分かり易く丁寧に説明するよう努めています。



地すべり資料館公式キャラクターの「地すべりくん」



パネルを活用した防災学習
(中央の説明者は「地すべり博士」に扮した職員)

(2) 体験学習・実験

当所の職員が自前で作った模型などを活用し、体験・実験を通じて液状化の現象等のメカニズムを学習します。

資料館で実施している実験・体験学習は以下のとおりです。これらの実験等は、小学校の教科書を読んで小学生でも理解しやすいよう、工夫して考えたものです。

- ①液状化実験で建物等が倒壊する様子を体験
- ②海底で地層ができる様子を体験
- ③3D地形図で関田山脈の隆起を学習
- ④造山実験装置で山脈ができる様子を体験
- ⑤泥岩が水に溶けていく様子を体験

一例として「液状化実験」を紹介します。まず小ケースに砂と水を入れ、地下水が高位な状態の地盤を作り、その地盤の上に建物や車を見立てた模型をのせて疑似集落を作ります。その後小ケースを揺らし、砂が液状化して模型等が倒れたり動いたりする現象を見てもらいます。



液状化実験で建物等が倒れる様子を体験



海底で地層ができる様子を体験

(3) 伝説の部屋

地域に密着した施設づくりを進めるため、上越市板倉区寺野地区(猿供養寺を含む)に伝わる伝説を紹介する部屋を設けました。当所の職員を中心に作成したかわいい人形等を活用し、伝説の主要な場面を分かり易く表現しています。

主な伝説は下記のとおりです。

【大蛇と人柱伝説】

大蛇が起こそうとしている地すべりを止めるために、村人の代わりにお坊様の人柱になった悲しい物語を人形で紹介しています。

【二猿(ふたりのさる)伝説】

この伝説は11～12世紀に編集された大日本国法華経験記(だいにほんこくほけきょうげんき)や今昔物語集にも載っており、お坊様と二人の猿の不思議な物語を紹介しています。この話は当資料館のある板倉区猿供養寺の地名の由来とも言われています。



「大蛇と人柱伝説」の紹介



「二猿(ふたりのさる)伝説」の紹介

3.リニューアル後の新たな取り組み

当所では、リニューアル後も頻発・激甚化する土砂災害や雪崩災害の防止・啓発に努めるとともに、地すべり資料館を広く周知するため、地すべり資料館を活用した新たなイベントを企画し取り組んでいます。

(1)「出張地すべり資料館」の開催

当イベントは、多くの市民が利用する公共施設やショッピングセンターを中心に、地すべり資料館の展示物と内容のパネルを展示する企画で、平成25年度から開催しております。(R4年度は5会場で実施)



上越市内のショッピングセンターの開催状況

(2)「親子雪崩防災教室」の開催

当イベントは、全国有数の豪雪地帯である本県で、小学生の親子に講座、体験等をととして、雪崩災害への防止・啓発や親子で雪崩災害の危険性を考えてもらうことを目的に平成26年度より開催(R3年度コロナ中止)しております。募集定員は10組20名としています。(R4年度はR5.2.18に開催予定)

主な内容は、専門家・当所職員による防災講座、ビーコン(位置情報端末)やゾンデ棒(人命探索棒)を使った「クマ太郎君(人形)」の探索体験等です。



ゾンデ棒を使った探索の体験



小学校等に配布する予定のチラシ(R4年度)

(3)「夏休み自由研究!親子防災教室」の開催

当イベントは、小学生を対象に防災について親子で一緒に学び考えてもらうため、平成30年度(R2・3年度コロナ中止)から開催しています。募集定員は、コロナ前は20組40人で参加希望が多く抽選を実施した時もありましたが、コロナ後は密集を避けるため10組20人で実施しています。(R4年度は7組14人が参加)

主な内容は、防災に関するシアター視聴、当所職員による防災講座、海底で地層ができる等の実験、液状化現象を再現する工作、館内見学です。

工作については、先ほどの液状化実験と同様に、タッパに砂と水を詰めその上に建物等に見立てた模型等で疑似集落を作ってもらいます。タッパを揺ると砂が液状化し模型が倒れたりします。



小学校等に配布したチラシ



防災に関するシアター視聴



液状化現象を再現した工作

4.人柱供養堂

土砂災害の防止・啓発に無くてはならない施設であり、当資料館の隣にあります「人柱供養堂」について紹介させていただきます。

人柱供養堂は、伝承が事実であったと証明された数少ない事例であります。

猿供養寺には、約800年前から地すべりを防ぐための人柱があるという伝説が語り継がれてきましたが、その言い伝えを裏付ける証拠はありませんでした。しかし昭和12年3月に住民が猿供養寺地内で作業をしていたところ、高さ約90センチ、横約70センチの甕（かめ）の中で座禅を組んだ人骨が発見されました。その後集落では人柱塔奉賛会をつくり毎年供養祭を行っています。

昭和42年には、人骨と甕が当時の板倉町文化財に指定されました。また平成4年には、住民や企業から浄財を募って人柱供養堂が建て替えられ、現在に至っています。地すべり資料館では、住民が考案した滑り止め効果（各種試験に効果?）をうたったお守り、お札を販売しております。



人柱供養堂とお守り

5.終わりに

当資料館のように規模が小さく専門性の高い施設は、施設の老朽化・設備の陳腐化等により入館者数が次第に減り、財政的にも存続が難しいケースが多くなっています。このような状況の中で、当資料館は地元住民・市職員及び当所の職員が中心となり地域と意見交換しながら自ら企画・運営し、リニューアルや新たな取組みも進め、入館数を増やし維持してきました。

また最近では、頻発・激甚化する土砂災害の危険性を知り、いざとなった時に備えたいという住民の思いも強く、町内会や自主防災組織等からも防災学習の依頼が増えてきております。

当資料館においても、今後も施設を存続するためには財政的な制約や入館者数等課題も多く、これからも様々な新しい取組みが求められると考えます。

今後とも、地域に密着した施設、防災学習の拠点として、地元住民、上越市等を中心に連携を図るとともに、入館者のニーズも把握しつつ、企画・運営を進めていきたいと考えています。

最後に、当資料館の運営・企画にあたり、多忙な中でも会議や相談に乗っていただいている地元住民・上越市等の関係者の皆様、そしてリニューアル、各種イベントの企画で中心的な役割を担った先輩・同僚の職員の皆様には、心より感謝申し上げます。

主な参考文献

- ・「ふしんにの里いたくら歴史散歩」
(板倉郷土史愛好会2011年)

越後平野に伝わる大蛇伝説と河川 ～滝谷川・能代川から信濃川、太田川へ～

株式会社クリエイトセンター 田邊 敏夫

1. はじめに

日本は世界的に見ても雨が多く、一級河川、二級河川、準用河川、普通河川を合わせると20万近くの河川があります。こうした河川は日本の稲作栽培を支えてきた一方で、大雨の度に氾濫するなど、畏怖すべき自然でした。

日本で稲作栽培が始まったのは今から約3千年前の縄文時代晩期と言われています。それ以来、川、池、湖沼、滝など水のあるところには精霊が宿るとされ、水神様として崇められてきました。弥生時代後半に「龍」が中国から伝わると、この水神様は龍と同じで、その化身が「蛇」であるとされてきました。また、山岳信仰も水につながる伝説と結びついたものが多くあります。こうしたことから全国の神社仏閣では至る所に龍や蛇を見ることができます。

新潟県にある神社は4,700社余りで、その数は都道府県の中では一番多いとされています。その理由として広い平野を有し、米収穫高が大きく人口も多かったことが村落の多さにつながり、神社数も多いとされています。新潟県は水が豊かで河川も多いことも意味し、龍や蛇にまつわる伝説が多く残されています。

本稿ではこうした伝説の一つを辿るとともに、治水対策に活かすことについて考えてみました。

2. 白山神社と慈光寺を繋ぐ大蛇伝説

当社の近くにある新潟総鎮守白山神社（新潟市中央区、以下「新潟白山神社」という）は山岳信仰による神社であり、大蛇伝説が残されています。

新潟白山神社の主な祭神は菊理媛大神（くくりひめのおおかみ）で、別名を白山比咩（しらやまひめ）大神と言います。石川県の霊峰白山頂上に祀られている女神で、この神様を勧請して新潟の地に祀ったものと伝えられています。菊理媛大神は龍神として、農業の

神、漁業の神、そして郷土の守り神として広く人々より尊崇されていました。

新潟白山神社境内には多くの摂社があり、その一つに金運上昇、商売繁盛の神さまとして多くの信仰を集める「蛇松（じゃまつ）神社」があります（写真1参照）。その由来の一つを紹介します。



図1 大蛇伝説に係る河川位置図
〔(国土地理院地形図、2023年)に田邊加筆〕



写真1 新潟白山神社と蛇松神社（新潟市中央区）

慈光寺（じこうじ）というお寺が、五泉市の南端、加茂市との境、霊峰白山の麓にあります。昔、この白山の山奥に住む大蛇の夫婦が、たびたび大雨や洪水を引き起こして村人たちに被害を与えていたため、困った村人は傑堂能勝（けつどうのうしょう）禅師に頼み、夫婦大蛇に七日七晩説法をしてもらいました。夫婦大蛇は今までのおこないを悔い改め、暴れるのをやめたそうです。

山を下りた大蛇の一匹は海へと向かいますが、白山神社で息絶えました。通った跡は滝谷川、能代川、小阿賀野川、信濃川となりました。もう一匹のほうは、長岡市蓬平に行きつき、高龍神社（こうりゅうじんじゃ）の御神体になったと言われています。

新潟県の五泉市と加茂市との境に聳える白山（標高1,012m）は、全国にある白山十峰の一つで越後白山とも言われています。この麓にある慈光寺（五泉市村松地区蛭野地内）は曹洞宗の寺院です。

この慈光寺と新潟白山神社とを繋ぐ「大蛇伝説」では、越後白山を源流とする滝谷川から能代川、小阿賀野川を経て信濃川に至る河川が大蛇の通り道として大きな役割を果たしています。

現在の新潟白山神社は信濃川から離れた位置にありますが、大河津分水ができる前は境内の直ぐ脇を信濃川が流れていました。

3. 慈光寺と滝谷川・能代川

慈光寺は越後白山の登山口にあり、南北朝時代以後醍醐天皇を支えた楠木正成の直孫である傑堂能勝禅師（新潟県村上市門前地内にある耕雲寺開祖）により開かれました。本堂を初めとする建築物は江戸時代の建築で国登録有形文化財となっています。また越後往古四ヶ道場（新潟県における曹洞宗の四大道



写真2 慈光寺と蛇枕石（五泉市蛭野）

場）として知られており、今でも座禅や写経を体験することができます。参道は県天然記念物に指定され樹齢300年以上といわれる杉並木により500メートルにわたって覆われ、訪れた参拝者に慈光寺の長い歴史を感じさせます。

なお、白山権現（白山比咩大神）は曹洞宗開祖の道元が留学先の宋から帰朝する前夜に出現し、禅法典の筆写を助けたので一夜のうちにすべてを書き写すことができたと言われています。そのため曹洞宗大本山永平寺の守り神となっており、白山信仰との関係も深いものがあります。

慈光寺の地元には次の伝説が残されています。

慈光寺の辺りは今から600年ほど前の応永年間(1400年頃)に、神戸太郎最重(かんどたろういとしげ)という豪族が治めていた。

当時、白山の奥の池に住んでいた大蛇が洪水をおこして田畑を荒らし、村人を困らせていた。最重は傑堂能勝禅師の高名を聞き、「白山の大蛇が暴れて、村人が困っています。どうぞ和尚様の法力で、大蛇を鎮めて下さい」と頼んだ。傑堂和尚は白山の山奥に入り、池のほとりの平らな石の上に座って21日間、一心不乱にお経を唱え、満願の日を迎えた。すると、その夜、美しい女の人が現れて、「私はこの池の大蛇です。ありがたい仏の教えで、俗世の苦しみから救われました。お礼にこの池を埋めて立ち去りますから、ここへお寺を建ててください」と言って、姿を消した。そして激しい地鳴りがしたかと思うと、池はたちまち埋まって平地になった。傑堂和尚は最重の力を借り、池の跡に慈光寺を建てた。

その後、白山の池を出た大蛇は滝谷川に沿って下った。大蛇が曲がりくねりながら下った跡が能代川となり、別名「九十九曲(くじゅうくまがり)川」とも呼ばれるようになった。



図2 能代川の蛇行（新潟県資料に田邊加筆）

慈光寺境内本堂の前には、大蛇夫婦がこの石に据まり傑堂和尚から説法を聞いていたとされる「蛇枕石」が残されています（写真2参照）。

慈光寺参道に沿って流れる滝谷川の源流は越後白山で、過去に何回も洪水を引き起こしている暴れ川として知られています。

滝谷川が合流する能代川は屈曲が多く、大雨の度に氾濫し、流域住民に大きな被害を与えてきました。図2は昭和23年の航空写真で、当時はまだ多くの蛇行が残っていました。こうした蛇行の姿は、大蛇伝説を思い起こさせます。能代川改修の際には数多くの遺跡が発見されており、縄文時代後期から弥生時代、古墳時代、平安時代から江戸時代と川沿いに生活が営まれ、川の恵みを享受してきました。しかし一方で、いったん大雨が降ると氾濫に見舞われてきました。

急流の滝谷川を下る流水による土砂災害、その下流では蛇行する能代川からの氾濫被害に度々見舞われました。こうした災害を起こす川の姿が「大蛇」と重なり、「大蛇伝説」が生まれたものと考えられます。また能代川名称の起源は「のたうち川」だったのではないかとの説もあります。

このようにかつて信濃川ほとりにあった新潟白山神社と越後白山麓の慈光寺双方に、両者をつなぐ大蛇伝説が残っています。

4. 高龍神社と太田川

越後白山の麓から流れ下ったもう一匹の大蛇がたどり着いたとされる高龍神社（長岡市蓬平地内）は、信濃川右支川の太田川上流、三方を川に囲まれた尾根先端部に建っています。龍神様の化身と言われる白蛇が祀られています。蛇松神社と同じく商売繁盛の神様として、県内外からの参拝者が絶えない神社です。



写真3 高龍神社（長岡市蓬平）

この神社自体は大正中期に創建されましたが、信仰の歴史は古く由緒は次のとおりです。

南北朝時代の明德元（1390）年、南北朝の戦いで負傷した武将（楠木正成の子、正儀の家臣）が慈光寺に向かう途中、激痛で生死をさまようなか、夢枕に「高龍」と名乗る老翁が現れて、白泉（蓬平温泉源泉）を教えた。療浴するとたちまち完治し、その話を知った村人が小さな祠を建てて高龍大神を祀り信仰した。以後、干ばつや大雨の際には一心に祈ると祈雨（きう）・止雨（しう）の靈験あらたかだったことから、信仰は一層深まった。

この由緒には大蛇を通じた新潟白山神社との繋がりは記載されていません。しかし大蛇が住んでいた地とされる慈光寺との関係があり、時代も概ね重なります。また干ばつや大雨など河川との関わりも深いことが分かります。

太田川は扇状地河川で南蛮山（標高548m）を源流とし、新潟県長岡市蓬平町、村松町、摂田屋を経て左近地内で信濃川に合流しています。扇頂部の村松町から放射状に多くの流路に分かれていたと推定できます（図3参照）。

扇状地河川である斐伊川を舞台としたヤマタノオロチ（八岐大蛇）の神話が出雲（島根県）にあります。ヤマタノオロチは8つの頭と8本の尾を持った巨大な大蛇で年に一度現れ娘を食べてしまうということで、スサノオノミコト（須佐之男命）が退治し、8番目の最後の娘を救う物語です。

ヤマタノオロチは斐伊川自体との説があります。山間の多くの流路（尾）が1本（胴）となり、扇頂部から再び多くの流路（頭）に分かれ、大雨により大きな被害を引き起こしていたとされるものです。また斐伊川は蛇のうろこを思わせる網状砂州でも有名です。この

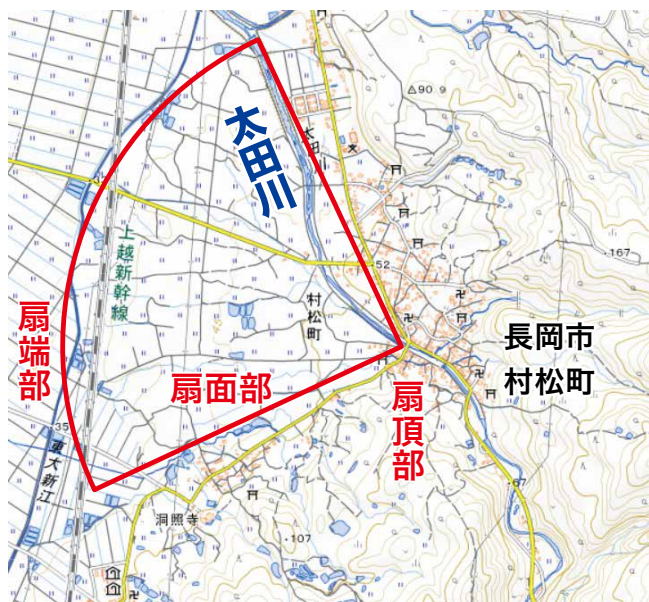


図3 太田川の扇状地地形

〔国土地理院地形図、2023 年〕に田邊加筆〕

神話はスサノオノミコトによる斐伊川治水工事の物語で、スサノオノミコトは日本における治水工事の始祖とも言われています。

扇状地河川である太田川でも毎年のように大雨で氾濫が繰り返されたことから、高龍神社と縁のある慈光寺、さらには新潟白山神社（蛇松神社）を繋ぐ大蛇伝説が生まれたとも考えられます。

5. おわりに

日本では稲作を始めた古代から人々は川沿いに住み、その恩恵を受けるとともに大雨の度に氾濫被害を受け畏怖の念を抱いてきました。こうした氾濫などの出来事は神話、伝説、昔話などの物語として伝えられてきました。

明治以前の治水対策は、大河川は別として中小河川流域においては自分自身を守る個人的対策及び共同体として集落を守る水防が主でした。

明治以降は国や地方行政府により一定計画の基で治水対策が行われるようになりました。その基本は河道拡幅、河床掘削、築堤護岸などでした。戦後はこれらにダムによる洪水貯留も組み合わせて行われるようになりました。

能代川では戦後まで蛇行が残り、新潟県による本格的な河川改修事業が昭和22年に始まりました。それ以降も何度か洪水に見舞われ災害復旧事業も併せて実施されてきました。今では下流部の蛇行は解消さ

れ、上流部（整備対象区間）での整備が引き続き行われています。能代川支川の滝谷川でも新潟県による河川改修事業が昭和28年から始まり、災害復旧事業も併せて五泉市村松地区市街地上流まで（整備対象区間）の整備が終わっています。

太田川では扇面部での流路整理が大正時代初めには既に現況に近い形で終わっています。戦後では昭和36年の集中豪雨を契機に新潟県による災害復旧事業が実施され、昭和45年からは河川改修事業が進められてきました。現在ではJR信越本線までの下流区間で概ね整備が終わっています。しかしその上流部河道（整備対象区間）は計画規模の2/3程度であり、早急な整備が待たれています。

これらの河川の計画規模は年超過確率で1/10～1/30程度です。しかしながら近年の気候変動の影響による豪雨の頻発化・激甚化を見ると、治水対策を上回る速度で気候変動の影響が顕在化している可能性が指摘されています。このため、これまでの河道拡幅やダム整備などを中心とした治水対策から、あらゆる関係者が流域全体で行う持続可能な「流域治水」へと舵が切られています。

こうした流域治水では流域住民の理解が不可欠です。治水対策に携わる者は流域における河川の歴史、文化にも光を当て、こうした物語も含めて流域住民と共有することで理解の一助になるものと考えています。

治水対策に永年携わってきた者の一人として、これからも河川の歴史、文化、物語などに注目していきたいと思います。

主な参考文献

- ・新潟県神社庁 HP
- ・新潟白山神社 HP
- ・大河と大蛇と寺社の伝説（新潟文化物語 HP）
- ・滝谷慈光寺リーフレット（2022 年）
- ・能代川災害復旧助成事業リーフレット（新潟県、2005 年）
- ・伝説の國むらまつ（駒形彪、村松町桜蔭塾、1994 年）
- ・新潟県伝説集成下越編（小川直嗣、恒文社、1996 年）
- ・越佐伝説漫考（小川直嗣、北越出版、2009 年）
- ・新潟の妖怪（高橋郁丸、考古堂出版、2010 年）
- ・龍神パワー探訪（戸部民夫、ピング・ネット・プレス、2022 年）
- ・週刊につぼん河川紀行 23 号「斐伊川」（学習研究社、2004 年）
- ・五万分一地形図「長岡」（大日本帝国陸地測部、1914 年）



「久しぶりの添乗業務と白根大風合戦」

中越交通株式会社 常務取締役 山崎康裕

コロナ禍となって3年が経ちました。何とか最近では「ウイズコロナ（コロナとの共生）」と言われるようになり、行動規制も無くなり、やっと長いトンネルの先に光が見えて参りました。最も打撃を受けた観光業界も復活の兆しが見えてきました。この様な状況下で久しぶりに団体の添乗で東京へ行参りました。

《久しぶりの添乗》

300年の伝統を誇る大風合戦で有名な新潟県新潟市南区（白根）の白根風合戦協会様からの依頼で都内の「堀切大風揚げ大会（荒川河川敷：堀切水辺公園）」参加に当たり、交通機関や宿などの手配を委託され、行程管理のために添乗員として同行致しました。期間としては、本年1月13日（金）～14日（土）の1泊2日で大会実施日が14日の為、前泊日程で行参りました。この堀切大風揚げ大会は、歴史は浅いのですが東京都内で大風

揚げが見られると言う事で人気が出て来ていましたがコロナ禍で中止が続き、久しぶりの開催となりました。会場は、荒川河川敷の菖蒲で有名な「堀切菖蒲園」の近くの堀切水辺公園で開催されました。白根風合戦協会様の役割としては、畳24畳の大風を揚げる事と地元の中学生への実技指導が主の目的との事でした。大会への参加は、成功裡に終了致しました。堀切にお出での節は、柴又や亀有などの観光も楽しめる地域です。大風上げ大会以外でも楽しめる地域です。

添乗員の業務は、予定している行程を予定通りに実施し、可能な限りお客様の希望に対応して、お客様に満足して頂く事が大きな目的です。その為の作業は、様々ありますが、この3年間殆ど添乗業務もない状況で最初は緊張しましたが30年以上も添乗員をしていますので徐々に感覚が戻り、私の添乗も成功裡に終了したと考えております。





【写真提供】 白根風合戦協会 様



《白根大風合戦と白根観光》

今回伺った「堀切大風揚げ大会」も確かに良い大会だと思いますが、少々物足りなさも感じました。私は、新潟市在住で、白根に友人が多数います。その関係で「白根大風合戦」の観戦や体験は、何度も経験しました。その雰囲気は、正に「合戦」です。

白根大風合戦の起源は、江戸時代の中頃、中ノ口川（風合戦を開催する河川）の堤防改修工事完成祝いに白根側の住民が風を揚げたところ、対岸の西白根側に落ち、家や農作物を荒らしてしまいました。それに激怒した西白根側の住民が風を揚げ、白根側の家にたたきつけた事が起源とされています。現在では、白根側（新潟市南区白根：白根地区）と西白根側（新潟市南区西白根：味方地区）との間で毎年6月上旬（第1木曜日から翌週の月曜日までの5日間）に開催されております。両地区の間で問題となった中ノ口川を挟んで両岸から24畳程ある世界

最大級の大風を揚げて絡ませ、風の綱が切れるまで引き合い勝敗を決める。正に「合戦」です。

この大風合戦が行われる新潟市南区（白根地区）は、旧白根市、味方村、月潟村から構成される地域で果物の産地でもあります。また、全国的にも有名な「白根仏壇」、国の重要文化財「越後の豪商の館笹川邸」、月潟地区の「角兵衛獅子」など観光地も多い場所です。大風合戦の行われる会場までは、新潟駅から自家用車で30分程とアクセスも容易な場所です。是非、今年の「白根大風合戦」の開催時期には、白根観光も含めてお出で下さい。宿泊は、新潟市のホテルや近くの岩室温泉、弥彦温泉などをご利用ください。

【参考】新潟市南区観光協会 ホームページ
<https://www.shironekankou.jp>



2022年度 建設コンサルタンツ協会 北陸支部 業務・研究発表会

〈技術部会 統括技術委員会〉

1.開催の背景と目的

建設コンサルタントを取り巻く社会情勢の様々な変化を踏まえ、近年では技術者の継続教育(CPD)に対する要請が高まりを見せています。このような情勢を受けて、業務における優れた成果や自主研究開発成果の発表を通じてお互いの技術研鑽を図ることを目的として開催したものであります。

2. 開催概要

(1) 対象業務と専門技術分野

建設コンサルタント企業に属する技術者を対象として、令和2年度～令和3年度に従事した建設コンサルタンツ協会北陸支部包括区域(新潟県・富山県・石川県)における国・地方自治体等に関する業務・研究発表会を開催しました。

専門分野は「河川、砂防及び海岸・海洋」「道路」「都市計画及び地方計画」「土質及び基礎」「鋼構造及びコンクリート」「トンネル」「建設環境」「防災・減災」「その他」の9部門としました。

(2) 選考方法

①第1次審査

令和4年6月20日から令和4年7月29日までの間で参加者を募集したところ、29編の応募がありました。審査は北陸支部選考委員会にて新規性、市場性、論理性の観点から厳正なる審査を実施し、8編を選考しました。

②北陸支部業務・研究発表会(第2次審査)

第1次審査で選考された8編を対象として、「北陸支部 業務・研究発表会」を開催いたしました。

開催は、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、会場(新潟)に建コン発表者・学生発表者・審査員・運営のみが集合し、発表質疑応答をWEBでのライブ配信方式としての開催としました。

表. 発表論文選考結果(発表順)

○は発表者を示す。

テーマ	発表者
バスケットハンドル型ニールセンローゼ橋のケーブル取替計画	大日本コンサルタント株式会社 北陸支社 技術部 構造保全計画室 ○小野 凌平、清水 英樹、脇坂 哲也、久保 幹也
地方自治体が管理するRC単純床版橋の補修方針検討	株式会社開発技術コンサルタント 第一技術部 ○小黒 蓮、寺田 直樹、奥原 智也、山田 裕介、浅田 渉
AI等の新技術を活用した希少猛禽類調査による環境配慮の実施 ～円滑な道路事業の推進を目指して～	株式会社国土開発センター 環境事業部 環境1部 ○定梶 さくら、前 正人、辰橋 浩二、本 憲太郎、山川 将径、 片桐 寿通
スマホアプリを活用した個人携帯端末への冬期道路交通情報提供	エヌシーイー株式会社 都市・地域計画部 岩淵 和有、○池田 薫、王 凱
離岸堤補強設計における水中ドローン調査の有効性検証	株式会社新日本コンサルタント インフラマネジメント本部 社会基盤部 川村 広樹、蓮池 康明、中村 裕也、開米 浩久、○堀 孝成
地域とつくる夢ある公園再生プロジェクト ～小規模公園の機能分担・再編に向けて～	株式会社日本海コンサルタント 社会事業本部 計画研究室 ○佐藤 伊希、柳瀬 邦治、小坂 健一郎、神納 毅、岩佐 奈生子
ETC2.0 プローブデータを活用した渋滞ボトルネック箇所と その影響範囲の分析	開発技建株式会社 交通計画部 五十嵐 豊、○佐藤 秀
iRIC Nays2D Floodを用いた小規模河川の洪水氾濫現象の再現検証	株式会社キタック IT プロモーティングセンター治水工学研究室 ○五十嵐 拓実、アリユン バダラ サンプ、小柳 徹

審査員は、審査委員長として長岡技術科学大学の細山田教授ほか、後援をいただいた国土交通省北陸地方整備局、新潟県から各1名、建設コンサルタンツ協会北陸支部から支部長、技術部会長の計5名で審査を実施しました。



発表の様子1 支部長挨拶

審査は発表内容について、技術力、将来性、プレゼンテーション技術などの観点から総合的に評価し、最優秀賞である支部長賞ほか、奨励賞、審査員特別賞の3論文を選考しました。

審査委員氏名	所 属
審査委員長 細山田 得三	長岡技術科学大学 環境社会基盤工学分野 教授
審査委員 石田 和典	国土交通省 北陸地方整備局 企画部 技術開発調整官
審査委員 稲岡 隆	新潟県 土木部 技術管理課 工事検査室長
審査委員 寺本 邦一	(一社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部 支部長
審査委員 神田 和久	(一社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部 技術部会長



審査委員長総評 細山田委員長



審査委員総評 石田委員



審査委員総評 稲岡委員



発表の様子2 会場

(3) 大学との連携

学生発表は、発表会を新潟県で開催したことから、新潟大学、長岡技術科学大学に依頼しました。両大学から学生を推薦していただき、業務・研究発表会で発表して頂きました。

演題：三次元トンネル掘削解析による地山弾性パラメータの早期推定法に関する検討
発表者：新潟大学大学院 自然科学研究科 環境科学専攻 滝沢 壮太



学生発表

演題：高潮想定解析を利用した橋桁の危険度推定に関する研究
発表者：長岡技術科学大学 工学研究科 環境社会基盤工学専攻 篠地 亙生
※諸事情により欠席

また、審査委員長を務めて頂いた長岡技術科学大学の細山田教授には、審査だけでなく基調講演も行っていただきました。

演題：流体運動と土木工学の関係
ー最近の話題からー



基調講演

(4) 配信内容

配信内容は全4部構成で、第1部は開会挨拶と基調講演、第2部で発表が4編、第3部で発表が4編、第4部では学生講演2編と審査結果発表と総評の構成で実施しました。

ライブ配信参加者105名、会場集合30名、合計135名と非常に多くの方々にご参加いただきました。

3. 審査結果

表彰された3論文・発表者は以下のとおりです。

・支部長賞

AI等の新技術を活用した希少猛禽類調査による環境配慮の実施

～円滑な道路事業の推進を目指して～

発表者：定梶 さくら

株式会社国土開発センター

環境事業部 環境1部



・奨励賞

iRIC Nays2D Flood を用いた小規模河川の洪水氾濫現象の再現検証

発表者：五十嵐 拓実

株式会社キタック

ITプロモーションセンター

治水工学研究室



・審査員特別賞

スマホアプリを活用した個人携帯端末への冬期道路
 交通情報提供

発表者 池田 薫

エヌシーイー株式会社

都市・地域計画部



4.おわりに

開催方法は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、WEBでのライブ配信による開催としましたが、大勢の方にご聴講頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。

また、業務・研究発表会開催にあたり、北陸地方整備局、新潟県、関係大学の皆様、そして北陸支部会員会社から、ご多忙中にもかかわらず、多大なご理解とご協力を頂き、大変ありがとうございました。

開催形態は未定ですが、来年度も開催する予定となっております。技術研鑽の場として来年度も多くの応募を期待しております。

今後とも、皆様からのご協力賜りますよう、合わせてお願い申し上げます。



表彰式の様子

お知らせ

【開催報告】皆でフックアップ！ 北陸建コン若手エンジニア2022

〈技術部会 若手技術者ワーキンググループ〉

1.はじめに

建設コンサルタントの仕事は、社会的使命感が強くやりがいもある一方で、若手技術者の減少などにより、担い手の確保に懸念が生じております。建設コンサルタント業界の次世代を担う若手技術者の確保・育成を図るためには、建設コンサルタントの魅力を広く発信するとともに、若手技術者が将来に希望を持っていきいきと仕事し、自らの仕事に魅力を感じられる業界を創出していくことが必要であると考えられます。また、DXの推進により働き方のパラダイムシフトが加速するなか、各社の若手技術者が率先してITツール等のリテラシー向上を図っていく事が重要であります。

このような背景から、技術部会若手技術者ワーキンググループでは、北陸支部の若手技術者が集まり、日々の仕事内容などについて、自由に意見交換ができる場を創ることを目的に、グループディスカッション「皆でフックアップ！北陸建コン若手エンジニア2022」を企画・開催しました。

～「フックアップ」に込められた意味～

・参考となる良い技術は素直に「良い」と声に出して“褒め合う”ことで、普段はライバル他社という垣根を越え、これからの業界を担う若手技術者の技術力やモチベーションを“引き上げて”いこうという意味があります。

2. 開催日時・方法等

【開催日時】 令和4年11月9日(水)

13:30～17:00

【開催方法】 対面+Web会議システムを併用したハイブリット形式での開催

対面会場：新潟日報メディアシップ
(6F ナレッジルーム)

【参加者】 北陸支部の若手技術者(10社40名)

3. プログラム

I. 開会挨拶・開催趣旨

II. 第1部：分野別ディスカッション

(日々の仕事での創意工夫点などの紹介)

III. 第2部：フックアップディスカッション

(現状のライフワークと10年後になりたい姿)

IV. 各グループからのまとめ発表・総評、閉会

4. 開催概要

(1) 開会挨拶・開催趣旨

ディスカッションの開始に先立ち、キーノートとして、若手技術者ワーキンググループから開催趣旨及び当日の研修内容等について説明を行いました。



開会挨拶・開催趣旨の説明(中野 若手技術者WGサブリーダー)

みんなで
“褒め合う”

『皆でフックアップ！
北陸建コン 若手エンジニア！』

▶ 日頃の業務や研究成果などを発表し、自由に意見交換ができる場を作ることで、**技術者同士の繋がり**を生み、互いに刺激を受け、**モチベーション**や**技術力の向上**を図る

💡 “フックアップ”に込められた意味

- 元々は、HIPHOP界隈で使われていた用語が派生（※諸説あり）
- 参考となる良い技術は素直に「良い」と声に出して“褒め合う”ことで、普段はライバル他社という垣根を越えて、これからの業界を担う若手技術者の技術力やモチベーションを“**引き上げて**”いこうという意味があります。

グループディスカッションの開催趣旨

(2) 第1部：分野別ディスカッション

第1部の分野別ディスカッションでは、参加者全員から創意工夫や自慢できる新しい技術・取組み、仕事で失敗したことや反省した事などについてプレゼンしてもらい、各プレゼン後にグループ内でディスカッションを行いました。

なお、ディスカッションは参加者の専門技術分野に応じて、Web 会議システム上に“セッション”を作成し、対面会場の参加者も Web 会議システム上のセッションに参加して行いました。

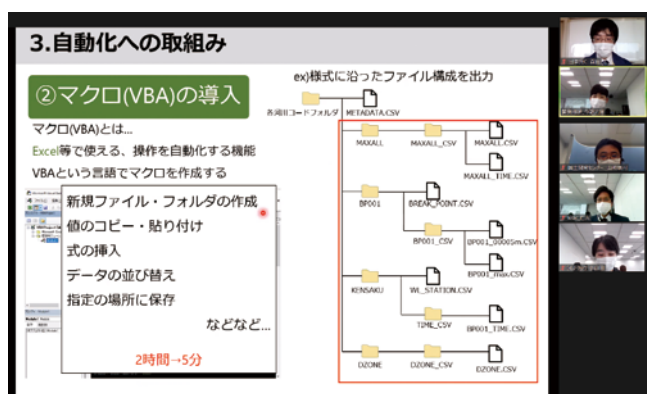
〈専門技術分野セッション〉

- ①グループ A (河川・砂防・海岸①) : 6 名
- ②グループ B (河川・砂防・海岸②) : 6 名
- ③グループ C (道路①) : 6 名
- ④グループ D (道路②) : 6 名
- ⑤グループ E (都市計画) : 6 名
- ⑥グループ F (橋梁①) : 5 名
- ⑦グループ G (橋梁②) : 5 名

各グループでは、VBA や RPA 等による作業の省力化などのほか、これまでの失敗事例やそこから学んだことなどについて発表がありました。



ハイブリット形式でのディスカッションの様子

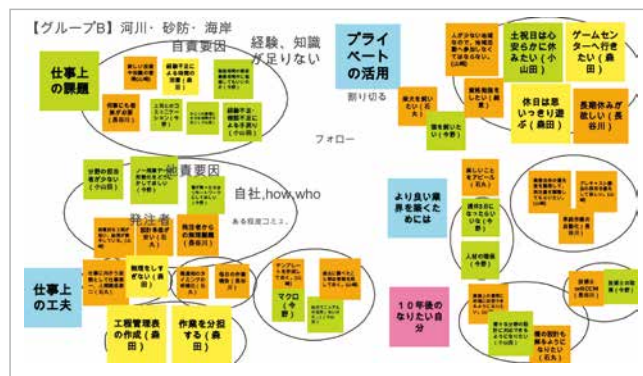


セッション内でのプレゼンテーション

(3) 第2部：フックアップディスカッション

第2部のフックアップディスカッションでは、仕事を行う上での課題や工夫、労働時間制約により増えたプライベート時間の有効活用など、より良い業界を築くため、10年後にどのような姿になりたいかをグループごとにワークショップ形式で自由にディスカッションを行いました。なお、オンライン上でもディスカッション内容の見える化を図るため、クラウド上で利用可能な電子ホワイトボードを活用し、各グループで情報の共有化及び議論展開を図りました。

各グループでは、経験不足による仕事の手戻りや、繁忙期などはプライベートの時間確保が難しいなどの課題が挙げられていました。その一方で、10年後はBIM/CIM等への対応、後輩への適格な指導、技術士等の資格取得など、技術者としての成長を望む意見も多く挙げられていました。



電子ホワイトボードを利用したディスカッションのまとめ

5. おわりに

参加者の皆様からのご協力で実り多いイベントにすることができ、ここに感謝の意を表します。今後も若手技術者同士の交流を促進するイベントを企画・開催していきますので、是非ご参加下さい。



参加者全員による記念撮影

令和4年度 道路・トンネル研修会

〈技術部会 道路委員会、トンネル委員会〉

1.はじめに

2022年9月28日(水)、本会北陸支部が入る興和ビル10階の大会議室において、道路・トンネル研修を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。事前の案内では、「AIを用いた画像処理技術とDXデータセンターに関する最新の話題」と「施工者におけるBIM/CIMの活用」の二題としていたのですが、「AIを用いた…」の方は前日に講師が急病との連絡があり、中止となりました。

8月の豪雨災害への対応で多忙な会社も多い中、対面20名、オンライン40名、合計60名の参加者となりました。新型コロナ感染予防のため、広めの会場を使用し、受付では手指消毒用のボトルを配置するとともに、席の間隔を大きくとってソーシャルディスタンスを確保しました。



写真1 会場の様子

[研修次第]

15:00 開 会 (趣旨説明)

15:20～16:50『施工者におけるBIM/CIMの活用』

【講師】西松建設株式会社 土木部 CIM推進室/DX推進室室長 川口 幸治氏

16:50～17:00 閉会 (講習会総括)

2.施工者におけるBIM/CIMの活用

以下、講演の概要を記述します。

(1) i-Construction、BIM/CIM

わが国が直面している課題として、①建設投資額と建設業者数の減少、②建設業就業者の高齢化と若年層の減少、③労働生産性の低さ、④自然災害の激甚化および⑤社会インフラの経年劣化が挙げられ、i-Constructionによる生産性向上とBIM/CIMによる生産・管理システムの品質確保と業務効率化・高度化が必要である。

(2) BIM/CIM導入の現状

問題として、詳細設計業務等に負荷がかかる、ソフト間に完全な互換性がない、操作環境・スキルが整っていない、管理者横断的に一元管理する場所が決まっていない、+αの労力・費用が掛かる等が報告されていることから、国交省のBIM/CIM推進委員会に5つのWGを置き生産性向上に向けた議論とWG相互の連携を図るとしている。

また、BIM/CIMの活用拡大に向けて、適用する工事の対象を拡げることとし、例えば大型構造物では概略、予備段階での導入を推進している。また、資格制度の制定、教育研修用テキストの作成・公開が行われてきた。さらに、情報の一元管理のための国総研DXセンターの設置、ソフトウェア間の互換性確保のための取り組みが進められてきた。

さらに、ITの活用で人々の生活をより良い方向に変化させるために、5Gの活用を踏まえ、国交省インフラDXを強く推進する計画が進んでいる。

(3) 施工者におけるBIM/CIM

施工者、工事単体でのBIM/CIMの効果として、合意形成の迅速化と理解促進、測量・計測・数量計算の省力化、施工のリスクの削減(品質・安全・工程)などがある。施工段階だけでも効果的ではあるが、建設生産システム全体での生産性向上(コンカレントエンジニアリング)、設計、計画段階での詳細検討(フロントローディング)、情報受け渡し(維持管理段階での活用)など、

効率化においては設計段階・維持管理段階の比重が大きい。将来は積算、進捗管理、出来高精算などへの活用が期待される。

講師が所属する会社では、①持続的にかつ積極的に受注できる体制を構築し維持するために、社内体制整備、人材育成、外注業者との関係強化、②現場の生産性向上につながる活用、を目指し展開を図るために、現場作業の効率化、施工リスクの低減および施工管理の高度化に取り組んでいる。

(4) BIM/CIM活用事例（設計～施工段階）

事例1 大野油坂道路荒島第2トンネル下山地区工事他

坑口部の施工方法、支保工建込み、法面保護工ルーパイル配置を3次元で詳細に検討を行った。

事例2 東海環状岐阜山県第一トンネル西地区工事（その2工事）

連絡坑断面の構造が複雑なため、3Dモデルにより避難坑断面の変更を提案した。また、連絡坑と避難坑の交差角が41°と小さく、3Dモデルを使って避難坑の接続部構造と支保工の配置を検討した。

事例3 国道289号2号トンネル工事

坑口部の設計図を3Dモデル化し、各部計画および施工手順の代替案を検討し、工期短縮を図った。

事例4 窪川佐賀道路不破原トンネル工事

安全性の確保および工期短縮を目的に、坑口形状および施工手順を3Dモデルにより比較検討した。

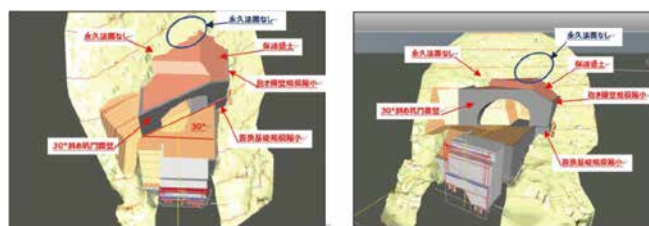


図1 3Dモデルによる坑口部検討

(5) 施工業者の意見

BIM/CIM活用に関する施工業者の主な意見を以下に挙げる。

○複雑部での活用については効果がある。○出来上がりイメージは各種説明会、建設業未習熟者に効果がある。○工事関係者間でのイメージの共有に使用するには費用対効果が低い印象。○埋設物や地層等、見えない所を視覚化するには事前の詳細かつ正確なデータが必要。○施工業者の手間も増え、生産性向上の観点からも効果が薄いと感じる。○設計段階からの3次元モデル活用を強く望む。○専任の3DCADオペレータの人材が必要と考えられ、地場建設会社では対応できる企業

に限られる。○BIM/CIMモデルが活用されるにあたり、過剰な施工精度が求められることがないようにお願いしたい。

(6) まとめ

BIM/CIM本来の活用のための基準・運用ルール策定は検討段階であるものの、わが国の主要な発注形態の中では、計画・調査、設計～施工～維持管理・更新の各段階で有用な情報が受け渡されることが、確実な工事遂行のために重要であるBIM/CIMはそのための効果的なツールである。

設計段階、施工段階それぞれのBIM/CIM活用であっても効果的な活用シーンが多い。しかし、建設生産システム全体での活用がこれからの建設産業の諸課題を解決する。そのためには、どのようなモデルや情報が次工程で必要になるか、前工程に求めるべきか、互いに認識を共有することが重要である。

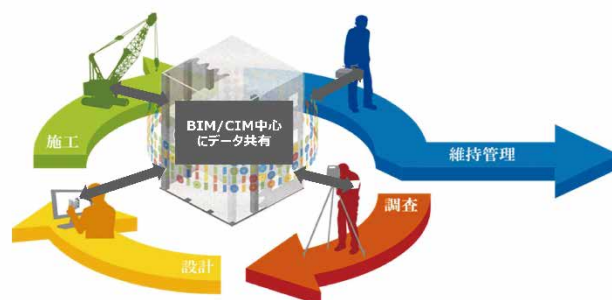


図2 BIM/CIMデータ作成・活用のイメージ

3.結び

予定していた講演のうち一題が中止となり、期待されていた参加者には誠に申し訳なく、機会があれば再度講演を依頼したいと考えています。

多忙な中、東京から来て講演してくださった西松建設株式会社の川口様に心より感謝申し上げます。BIM/CIMの概要にはじまり、事例に基づく今後取り組むべき課題までを丁寧に分かり易く説明されました。受講者にとって、今後業務を進めるうえで大きな糧になるものと思います。また、準備および当日の運営を担った委員各位に感謝申し上げます。

この報文が会員の手元に届くころには、新型コロナが収束していることと、ウクライナでの戦禍が終結に向かっていることを祈念し、結びとします。

以上

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

会 員 名 簿

令和5年2月1日現在

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株)	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
応用地質(株)	北信越事務所	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
基礎地盤コンサルタンツ(株)	北陸支店	950-0925 新潟市中央区弁天橋通1-2-34 尾山ビル	025-257-1888 025-257-1880

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)協和コンサルタンツ	新潟営業所	940-0061 長岡市城内町3-8-7 蒼柴ビル801	025-889-8302 025-889-8304
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	北陸支店	950-0973 新潟市中央区上近江2-9-19 レジデンス近江101	025-288-6893 025-288-6894
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
(株)新日本コンサルタント		930-0857 富山市奥田新町1-23	076-464-6520 076-464-6671
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0029 富山市本町3-21 損保ジャパン富山ビル	076-415-7800 076-415-7795
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
館下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776
(株)ティーネットジャパン	北陸支社	951-8061 新潟市中央区西堀通6番町866 NEXT21ビル	025-226-4330 025-226-3033
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曾根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区綱川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
(株)日本インシーク	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル5F	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	951-8067 新潟市中央区本町通7番町1153 新潟本町通ビル	025-224-1285 025-224-1286
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
(株)村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

役員・委員会名簿

令和5年2月1日現在

北 陸 支 部 役 員			
支部理事	支部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副支部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	副支部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	副支部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	運営委員長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
〃	運営委員	黒 木 康 生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	瀬 川 光太郎	(株)建成コンサルタント
〃	運営委員	末 武 晋 一	日本工営(株)
〃	運営委員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	運営委員	齊 木 勝	(株)キタック
〃	運営委員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
支部監事	支部監事	高 堂 景 寿	相互技術(株)
〃	支部監事	佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント

対 外 活 動 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
	部会員	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会幹事	坂 上 悟	開発技建(株)
	部会員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	部会員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	渡 部 長 務	エヌシーイー(株)
	部会員	酒 井 大 助	八千代エンジニアリング(株)
新潟地域委員会	委員長	齊 木 勝	(株)キタック
〃	委 員	折 笠 昇	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	田 邊 敏 夫	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	岩 澤 弘 和	(株)構造技研新潟
〃	委 員	吉 田 茂	開発技建(株)
〃	委 員	坂 西 和 也	エヌシーイー(株)
富山地域委員会	委員長	柴 田 聡	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
〃	委 員	吉 田 勉	(株)上智
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	榮 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	二 俣 秀	(株)国土開発センター

総務部会			
	部会長	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
総務委員会	委員長	清 原 宏 二	開発技建(株)
〃	委 員	佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	佐 藤 雄 一	(株)構造技研新潟
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	浜 辺 良 彦	相互技術(株)
〃	委 員	今 野 健	エヌシーイー(株)
倫理・法令委員会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
〃	委 員	田 崎 友 康	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 秀 典	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	櫻 井 英 二	(株)国土開発センター
〃	委 員	河 原 健 二	(株)日本海コンサルタント

技術部会			
	部会長	神 田 和 久	開発技建(株)
統括技術委員会	委員長	藤 巻 智 之	開発技建(株)
〃	委 員	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 塚 秀 行	(株)キタック
〃	委 員	杉 野 亨	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	池 潤 稔	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	安 藤 正 幸	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	加 藤 毅	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
河川・砂防委員会	委員長	須 田 玲	エヌシーイー(株)
〃	委 員	阿左美 敏 和	(株)建設技術研究所
〃	委 員	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
〃	委 員	浜 谷 智	五大開発(株)
〃	委 員	太 原 晶	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	伊 藤 信 哉	開発技建(株)
〃	委 員	金 子 幸 生	相互技術(株)
〃	委 員	伊 藤 正 喜	(株)開発技術コンサルタント
道路委員会	委員長	木 村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	須 佐 慎	開発技建(株)
〃	委 員	吉 田 要	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	森 将 恒	(株)キタック
〃	委 員	木 下 裕 康	(株)国土開発センター
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計

橋梁委員会	委員長	初 鹿 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 村 康 裕	開発技建(株)
〃	委 員	渡 邊 敦	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
〃	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	浦 修 造	(株)国土開発センター
〃	委 員	鷹 西 輝	(株)東洋設計
〃	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	塚 嶋 雅 則	東京コンサルタンツ(株)
トンネル委員会	委員長	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	須 貝 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	松 尾 内 助	(株)キタック
〃	委 員	長谷川 哲 也	サンコーコンサルタント(株)
〃	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	岩 渕 和 有	エヌシーイー(株)
〃	委 員	飯 田 雅 之	開発技建(株)
〃	委 員	莊 司 洋 文	(株)キタック
〃	委 員	森 川 大 輔	(株)国土開発センター
〃	委 員	酒 井 信 次	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	竹 内 聡	開発技建(株)
〃	委 員	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	竹 野 茂 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	西 暢 人	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	辰 橋 浩 二	(株)国土開発センター
〃	委 員	山 井 壮 志	大原技術(株)
若手技術者ワーキンググループ	リーダー	村 田 亨	開発技建(株)
〃	サブリーダー	中 野 達 也	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	濱 田 康 行	(株)国土開発センター
〃	委 員	一 噌 真佐志	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	石 丸 俊太郎	(株)キタック
〃	委 員	杉 田 友 樹	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	本 間 千 悠	(株)構造技研新潟
〃	委 員	佐久間 佑 多	相互技術(株)
〃	委 員	飯 野 美 樹	エヌシーイー(株)

広 報 部 会			
	部会長	熊 倉 孝 次	(株)クリエイイトセンター
広報委員会	委員長	高 橋 宏 明	開発技建(株)
〃	委 員	飯 田 互	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	石 塚 英 洋	エヌシーイー(株)
〃	委 員	新 保 和 広	相互技術(株)
〃	委 員	本 間 健太郎	(株)ナルサワコンサルタント
〃	委 員	國 兼 功	八千代エンジニアリング(株)
〃	委 員	諏 訪 浩	日本工営(株)
〃	委 員	坂 原 徹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	島 由 治	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	新 家 哲 平	(株)国土開発センター
会誌編集委員会	委員長	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
〃	委 員	長 田 宏 之	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	古 橋 伸 彦	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	藤 井 和 行	(株)構造技研新潟
〃	委 員	太 田 博 昭	(株)国土開発センター

災 害 対 策 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
新潟現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	坂 上 松 則	開発技建(株)
富山現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	副責任者	青 木 秀 典	大日本コンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
災害対策委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	委 員	坂 上 悟	開発技建(株)
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	増 山 繁 雄	北陸コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

事 務 局			
	事務局長	佐々木 清 一	

編集後記

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年を振り返れば、今だ終息とはほど遠い感染症の猛威、感染対策に取り組んでいるとはいえ、なかなか落ち着きません。

そのような中でも、夏の夜、耳を澄ませ音が聞こえる方を見上げれば、夜空に大輪が美しく咲いていました。幾度となく、そのような光景を目にし心が落ち着いた事を思い出します。待ち望んでいたのは、目にした方はもちろん、花火師さんの気持ちを考えると熱くなるものがあります。その瞬間、どのような気持ちで点火し、その姿を見上げていたのか。

また、11月には4年に一度のサッカーワールドカップも無事開催されました。ご存じのように、日本の活躍、躍進は本当に素晴らしいものでした。結果については賛否両論はあると思いますが、素直に拍手を贈りたいです。かなり寝不足になった方もおられるのでは。

今年は当たり前の事を当たり前にできる年になる事を心から願うとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

長田宏之

発行／一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長／齋藤浩幸

委員／長田宏之 古橋伸彦 藤井和行 太田博昭



発 行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階

TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

<https://hr-jcca.jp/>